

《令和7年度 乳児健診アンケートに対する現状と課題》

保育に関すること

①0・1・2歳児も土庄こども園に預けられるようにしてほしい。

②土庄こども園も3か月児から保育してほしい

⇒これまで、0,1,2歳児は土庄保育園、3,4,5歳児は土庄こども園が保育を実施することを基本として連携してきましたが、ここ数年間は想定を上回る少子化が続いています。

この状況下でも引き続き保育環境を維持するため、土庄こども園では令和7年度から3,4,5歳児を入園の対象としています。

運用を変更する際は改めてお知らせしますので、何卒ご理解をお願いいたします。

③給食費の無償化や2人目からでも手当を手厚くしてもらえれば、一人っ子の家庭も少なくなると思う。

⇒令和8年4月から保育料、給食費の無償化を実施しています。

遊び場に関すること

④暑い日や雨の日に屋内で遊べる場所が少なく感じる。

⇒児童館や子育て支援室のほか、図書館や体育館など、既存の社会教育施設も活用していただければと思います。また、ユカリノSPACE 小豆島（とのたる館3階交流スペース）では、毎月第3土曜日に子育て広場を開催しています。小さなお子様のご利用も可能ですので是非お越しください。

その他

⑤自然豊かな島なので、もっと漁業や農業の体験を子どもたちにさせてあげたい。

⇒土庄町では、地域の関係機関や企業の皆様と連携し、第一次産業に触れる体験や食育事業を実施しています。

地産地消推進協議会との連携し、玉ねぎ、じゃがいも、水稻、イチゴなどの植え付けや収穫を体験する機会を設け、自ら土に触れ、作物が育つ過程を学ぶことで、農業への理解を深めています。また、かどや製油株式会社と連携し、ごまの収穫体験を実施しているほか、学校給食においてごまを使用した「ごまんぞく給食」を提供し、食と産業の関わりを楽しみながら学ん

でいます。

水産業についても、四海漁業協同組合との連携し、地域の特産である「小豆島 島鰐」について学ぶ機会を設け、漁業への関心を高めるとともに、命をいただくことの大切さを学ぶ食育活動を展開しているほか、畜産においても、小豆島発祥のブランド牛である「小豆島オリーブ牛」についての学習や給食での提供を通じ、地域の畜産業への理解や地産地消の意識を育んでいます。

町といたしましては、これらの連携事業を通じた体験（植付・収穫など）や学校給食での実践をさらに充実させるとともに、今後も地域の方々のお力添えをいただきながら、子どもたちが小豆島の自然や一次産業の魅力に直接触れられる体験・学習の場を積極的に創出していく所存です。



ご協力ありがとうございました